

日本学術会議 公開シンポジウム



文化財保護に
未来はあるか
—日本の文化財の
これからを考える—

2022年12月11日(日)
13:00~17:30

- ◆ オンライン(ZOOMウェビナー)開催
- ◆ 定員 500名
- ◆ 参加費 無料(申込締切12月4日(日))

長年にわたって日本各地で生まれ、伝えられてきた文化財は、過去からつながるこの地で人々が生きて行く拠り所となるかけがえのない存在である。

文化財を取り巻く状況が大きく変わり始めた今日、文化財保護に明るい未来は描けるのか。本シンポジウムでは、文化財防災、改正文化財保護法、地域社会総がかりの取組、更には世界的潮流などの視点から、地域、日本、そして人類の未来にも深くかかわる文化財保護の今後を展望する。

PROGRAM

<進行> 宮路淳子(日本学術会議連携会員、奈良女子大学)

趣旨説明 福永伸哉(日本学術会議連携会員、大阪大学)

基調報告 「持続可能な発展と文化遺産」 星野有希枝(文化庁)

個別報告1 「大規模災害から文化財をまもるために望まれる方向性」 菊地芳朗(日本学術会議連携会員、福島大学)

個別報告2 「平成30年の文化財保護法改正が示す文化財防災の方向」 岡田健(奈良大学)

個別報告3 「法改正と文化財の未来」 杉本宏(京都芸術大学)

個別報告4 「地域主体の文化遺産保存活用—岡山県真庭市の取組みから—」 新谷俊典(真庭市教育委員会)

総合討論 <コーディネーター> 福永伸哉、松本直子(日本学術会議連携会員、岡山大学)

閉会の辞 芳賀満(日本学術会議第一部会員、東北大学)

◆ 申込方法 右記URL・QRコードのフォームに必要事項を記入し、送信してください。 <https://forms.gle/d53MD5c5XM27oH2PA>

◆ 参加方法 申込時のメールアドレスに、シンポジウムの参加URLと資料送付の方法をお送りします。

◆ 注意事項 当日は開始10分前から参加できます。※途中入退室自由

開催前日までに申込受付完了メール、参加URLのメールが届かない場合は、事務局メールアドレス (ridc@okayama-u.ac.jp)までご連絡ください。



主催:日本学術会議史学委員会 文化財の保護と活用に関する分科会 共催:岡山大学文明動態学研究所

後援:一般社団法人日本考古学協会、考古学研究会、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター